

## 5 カーネーションを短く切ると収量が増える

### ねらいと成果

近年の調査では自宅に飾るための花の消費は増加する傾向にある。しかし、花の価格に割高感を感じている消費者は多く、花の価格が20%低下すれば消費者の20%以上は購入量を増やしたいという報告がある。一方、家庭消費用の切り花の長さは、これまでより短いものでよく、例えばバラでは30~50cm程度とされている。このことからカーネーションの家庭消費用短茎切り花の多収技術の開発を目的に切り花の長さ(収穫長)を変えて収穫し続けたところ、収穫長が短いほど収量が増加し、慣行の70cmに対して30cmでは倍増した。

### 内容

#### 1. 試験方法

収穫期間を通じて常に30cm、40cm、50cm、60cm、70cmの一定の長さで収穫した。

2002年7月16日に「ノラ」をアルミ蒸着フィルムでマルチした幅85cm、深さ20cmのベンチに、35.3株/m<sup>2</sup>(ベンチ面積、以下同じ)で定植した。8月1日に4~5節残して摘心し、9月3日に4本以下/株に整枝した。以後、分枝の上位4~5節に付く蕾は除去し、それより下に発生した側枝は放任した。肥培管理は養液土耕とし、1500倍の液肥(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> :

K<sub>2</sub>O=15:8:16)を毎日1m<sup>2</sup>当たり1.2~6.9Lずつ時期ごとに変えて施用した。

#### 2. 結果

##### ①収穫長と総収量の関係

1m<sup>2</sup>当たりの総収量は収穫長が短いほど多く、70cmと比較すると30cmでは108%、40cmでは92%、50cmでは45%、60cmでは9%増加した(図1)。時期別の収量は1月まではいずれの区も差はなかったが、30cm、40cmおよび50cmでは2月から増え始め、特に30cm、40cmでは3月に急激に増加した。一方、60cm、70cmでは5月に急激に増加し、収穫長が短いほど2月以降の収量が増え始める時期が早かった。

##### ②収穫長と収量構成要素の関係

収量構成では1番花の本数はいずれの区にも差はなかったが、2番花、3番花の本数は収穫長が短いほど多かった(図2)。70cmでは3番花は収穫できなかった。

#### 今後の方針

毎年改植しないで同じ株を続けて利用する長期継続栽培と組み合わせ、さらに低コスト、増収技術として確立する。

山中正仁(淡路農技・農業部)

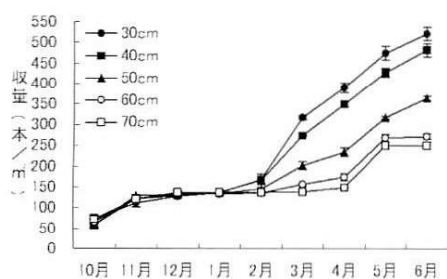


図1 カーネーションの収穫長と積算収量の関係

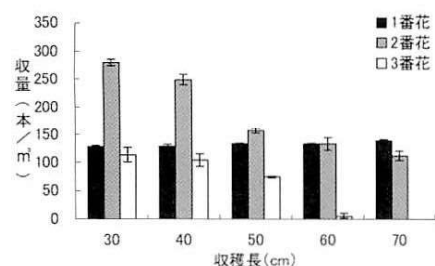


図2 カーネーションの収穫長と収量構成との関係



図3 2番花の開花の様子

2月現在、30cm収穫区(上)では収穫期を迎えているのに対し、70cm収穫区(下)では着蕾は見られない